



▲令和6年台湾文化交流公演のフィナーレにて。台熊友好会のメンバーと出演者が揃って記念撮影

▲松岡さんによる台湾スイーツ講座に小学生が参加。メディア取材も入り、台湾との交流に対する関心が高まっている

台湾と熊本を つなぐ架け橋に

まつおか みつき
松岡 光希さん(吹田)



異国の文化を受け入れ、挑戦を重ねてきた松岡光希さん。現在は美容の仕事のほか、台湾と熊本をつなぐ活動にも取り組んでいる。地域に根を張り、人と人との架け橋となっている松岡さんにフローズアップした。

吹田で美容サロンを営む松岡光希さん。予約制のサロンは、リピーターのお客様に長く愛され続けている。半導体エンジニアとして台湾に赴任していた夫と出会い、結婚。2004年に大津町へ移住した。「結婚当初は通称名や戸籍の手続きが大変で、とても苦労しました。日本語はある程度できましたが、熊本の方言には本当に苦労しました」と当時を振り返る。両親からも「日本は亭主関白と聞くが大丈夫か」と心配されたが、夫の協力と支えを受け、町での暮らしも気づけば20年を超えた。前向きで、積極的な性格の松岡さんは2022年に設立された「台熊友好会」の立ち上げメンバー。台湾出身者や台湾に縁のある日本人とともに、情報発信や通訳で在住者や観光客を支援している。TSMC本社のある新竹市出身ということもあり、最近ではTSMCに関する身近な質問を受けることも。「熊本と台湾の魅力を伝える時は、良いことだけでなく、困ることや違いもきちんと伝えるようにしています。台湾の人はとてもストレートに伝える文化があります。そこを理解していただけたら」と語る。文化の違いに向き合う中で心掛けていたのは「元を壊さない」こと。相手の大切にしているものを尊重しながら、受け入れる姿勢を大切にしている。「無理なく、自分にできることをコツコツと積み重ねていきたいですね」。朗らかに話す光希さんは、これからも熊本と台湾をつなぐ架け橋、であり続けるだろう。

こころの声

ここ1、2年なんとなく体の不調を感じていました。この不調は加齢によるものだろうと考え、仕方ないことだと思っていたのですが、最近その原因が分かりました。原因を取り除けば、1〜2カ月で症状が改善されるかもしれないとのこと。違和感を放置せずに検査をすることの大切さを改めて感じました。

先日、娘の高校入試の出願関係で事前登録を行いました。インターネットで手続きを行うこともできることから、受験料の支払いがスマホ決済も可能なることに驚きました。私が高校受験をした頃とは全く違う仕組みです。デジタル化がすごいですね。

(M.S)



UD
FONT
易やすぐ読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

広報おおづ 2026 1

発行・編集 大津町・総合政策課
〒869-11292 熊本県新田郡大津町大字大津1233番地
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 印刷 印刷株式会社
※ 広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。



はじめての餅つき、
一緒に

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報
おおづ

1
January 2026